

国語科学習指導案

平成 17 年 10 月 6 日（木）第 3 校時

5 年 2 組 指導者 長谷川純子

伸ばしたい言語能力

集材、選材、構成・記述の過程で、自分の意見とそれを支える根拠の整合性や、根拠の質、意味付けを考え、根拠を明確にして意見文を書く力を付けたい。

書くことの内容（１）イ 全体を見通して、書く必要のある事柄を整理すること。

単元名 伝え合って考えよう

人と「もの」との付き合い方（光村図書 ５年）

単元の考察

（１）児童の実態（男子 14 名 女子 16 名 計 30 名）

国語への関心・意欲・態度

意見文を書くことに関しては、分かりやすい意見文を書きたいという意識をもっている児童が多く、関心は高い。

環境問題に関して知っている言葉を聞くと、森林破壊、ダイオキシン、地球温暖化、酸性雨などの言葉を挙げているが、何が原因でどのような現状があり、今後どうしていくことがよいかなどを考えたり調べたりした経験はほとんどない。どんなごみが地球上に多いかでも生ごみと空き缶を挙げていて、身近なごみに関心がある。漠然と日本は世界の国に比べごみは多いほうだろうと答えているが、どんなごみが多いのかや問題になっているのかについての知識は少なく、地域や地球全体のごみという視点は育っていない。

書くこと

意見とは、自分の考えであり、感想と区別して考えている児童は 70% である。また、自分の考えの中で誰かに伝えようとするものが意見であると考えている児童が 17% あり、意見文を書くときに相手意識をしっかりとって書くことができている児童もいるが、意識されていない児童が多い。

意見文を書くことは、短作文の時間に経験し、根拠を挙げて書こうとする児童が増えてきた。しかし、分かりやすい意見文の構成を意識できている児童は 17% である。また、前回の意見文で自分の意見を支える根拠を一つ挙げている児童が 70% であり、複数の根拠を探す姿勢は育っていない。また、意見と根拠が合っていない児童は 23% あり、自分の主張を支える具体的な例を挙げ、分かりやすい意見文を書くことは不十分である。

言語についての知識・理解・技能

分かりやすい意見文にするには、自分の考えを表現するための段落の組み立て方や、意見と根拠との書き分け方に着目して意見文の書き方を考える必要がある。しかし、児童の意識に意見文の構成と分かりやすさを関連付ける視点が十分には育っていない。

（２）教材観

調べた内容の文章化及び構成については前単元の「言葉の研究レポート」で学習した。レポート文は、90% の児童が書けていたが、その後の課題作文では構成を意識して書けた児童は約 20% であった。レ

ボートの構成は理解しても、課題作文の構成を意識することには広がらなかった。そこで、分かりやすい意見文を書くために、構成をはっきりさせること、意見とそれを支える根拠を明確にすること、根拠の意味付けを入れて筋が通った文を書くことを、本教材を通し実践していくことが重要である。

環境問題は、児童が生涯にわたって取り組まなければいけない課題である。だからこそ、理科、社会はもとより総合的な学習の時間でも地域の環境問題に取り組んでいる。「地域を考え、地球規模で行動する」という筆者のモットーにも理解を促したいが、環境問題がどの程度進んでいるかについての記述はほとんどなく、この文章だけでは具体的な事例に関する理解がほとんど得られない。言葉は知っているが内容の理解が不十分だという児童もいる。そこで、社会の学習と並行して環境問題を学習する時間を取り、自分の課題を見付け、考えたり調べたりする時間を十分確保し、誰かに伝えたいと思う意見を一人一人の児童にもたせていく。そして自分の意見を支える根拠を友達と交流活動することによって明らかにし、意見と根拠の整合性と、根拠の軽重や質、意味付けを考えることにより、意見文を書く力を育てていけると考えた。

指導方針

- (1) 資料「ごみ問題ってなあに」から、ごみのでき方、日本の江戸時代のくらし方、マラウイのくらし方に焦点化し読み取るようにする。一人一人が課題をもつために、読み取りのほかに、紙のリサイクルの現状、プラスチックごみの現状、グリーンプラ事業、地球温暖化・水質汚濁などの環境問題について社会の時間に原因と現状の二つの観点から学習をする。
- (2) 自分の課題をそれぞれが調べていけるように、図書室の本や市の図書館の本を活用させる。インターネットの活用も考えられるが、家庭か放課後の時間を使ってインターネット検索を利用する。授業時間には、補助教材として用意した 40 冊の本も活用し調べることにする。
- (3) 調べたことは、ノートに参考図書も書き加え、自分の言葉でまとめて書くように指示する。この調べる活動は、個人差が大きく個別に指導することも予想されるので、ＴＴでの授業を計画する。
- (4) 調べる中で自分の意見をもてるように個別に支援していく。自分の意見がはっきりするように意見と根拠のキーワードを画用紙に書いて、伝えたい考えの焦点化を図る。
- (5) 自分の意見と根拠をクラス全体で紹介する交流活動で、「自分の考えは何か」「その根拠は何か」「自分と同じ考えをもっている友達の根拠は何か」「自分と違う考えをもっている友達の根拠は何か」を確認するためのワークシートを用意する。
- (6) 自分の意見とそれを支える根拠を話し合うために、意見と根拠を表や図に整理するように助言する。そして、たくさんある根拠の中で自分の意見を支える根拠は何かを明確にして説明できていたかを隣同士で確認するように指示する。
- (7) 班で意見と根拠を話し合う中で、意見と根拠の整合性や、事柄や具体例の中でどれが根拠として適切か取捨選択するためお互いに意見交換のための交流活動をする。どの根拠を選ぶかが分からない児童には、どの根拠で説明すると相手に分かりやすいかを考えるように助言する。
- (8) 意見文の構成の型は以下のようにする。
 - 書き出しに、自分の意見を主張する。
 - 「例えば」「なぜなら」という言葉で、根拠を基に話をつなげる。自分の意見を支えていると考える理由を入れる。
 - 「また」「次に」という言葉で、２つ目の根拠を挙げる。理由を入れる。
 - 「だから」「つまり」の言葉で、自分の意見をもう一度書く。文末は意見だとはっきり分かるように

「……と考える。」「……するべきである。」「……を強く主張する。」とする。

- (9) 書けた意見文を読み合い、根拠を配置する順序が分かりやすいかや根拠の意味付けが入っているかに視点を当てて班で話し合う交流活動を行う。交流活動を通し、自分の意見を伝えるためには、構成、意見と根拠の整合性、根拠を配置する順序、意味付けなどが大切なことに気付かせていく。

指導目標

- 「ごみ問題ってなあに」をきっかけに、自分なりの課題をもって調べ、交流活動を通して、意見と根拠を明確にして、意見文を書いている。

評価規準

観点	A 十分満足できる状況	B おおむね満足できる状況
国語への関心・意欲・態度	伝えたい意見を正しく伝えるために複数の根拠を挙げて分かりやすい意見文を書こうとしている。	意見を伝えるために根拠を複数挙げて分かりやすい意見文を書こうとしている。
書くこと	交流活動を通し、意見を明確にし、意見と根拠の整合性のある複数の根拠を挙げ、筋の通った意見文を書いている。	交流活動を通して、意見と根拠を明確にして、意見文を書いている。
言語事項	分かりやすい意見文にするために、段落の構成や、意見と根拠の書き分け方に着目して、意見文の書き方を考えている。	段落の構成や、意見と根拠の書き分け方に着目して、意見文の書き方を考えている。

指導計画（9時間扱い）

次	時	主な学習活動	主な教師の支援及び指導上の留意点	評価項目
1	1	○ 全文を音読する。 ○ 新出漢字を理解し、意味調べをする。	○ 漢字の読み間違いや、飛ばし読みをしないように一人一人の口形に気を付ける。 ○ 家庭学習で音読練習の多い児童を賞賛する。 ○ 意味調べが早く終わった児童には、新出漢字の熟語作り、短文作りをするように指示する。	A 言葉の使い方の理解を深めるために、辞書を利用している。 B 意味の分からない言葉を辞書を使って調べている。（言 観察）
	2 3	○ 資料「ごみ問題ってなあに」を読み、自分の課題を考える。	○ 資料「ごみ問題ってなあに」から、ごみのでき方、日本の江戸時代のくらし方、マラウイのくらし方に焦点化し読み取り、感想を書く中で、これから調べる自分の課題について考えるようにする。 ○ 資料からでは環境問題についての理解が不十分なので、社会科で並行して環境問題を扱い児童の問題意識を高めるようにする。 ○ 筆者のモットー「地域を考え、地球規模で行動する」について説明する。	A 教科書と自分の経験や知識を比較し、自分の考えをまとめている。 B 考えを明確にするために必要な場所を読み、まとめている。 （書 ノート）

見 通 し	2	4	- 自分の課題を決め、調べる。 - 調べたことを整理し、意見をもつ。 - 自分の意見と根拠を焦点化し、キーワードをまとめる。	- 感想や疑問、詳しく知りたいことを発表させることを通し、課題のできていない児童の参考になるように助言する。 - 補助教材として環境問題に関する図書を40冊用意し、個の興味や疑問を生かせるように支援する。 - 図書室やインターネット、新聞などから資料を集め調べる活動は個人差が大きいのでTTで指導にあたる。 - 調べたことは、ノートに参考図書も書き加え、自分の言葉でまとめるように指示する。 - 自分の意見の焦点化を図るために短い言葉でまとめ発表の準備をするように指示する。	A 伝えたい意見を正しく伝えるために、意見を支える根拠を何冊かの図書を参考にして見付けようとしている。 B 分かりやすい意見文を書くために、意見を支える根拠を見付けようとしている。(関 ノート)
	1	5	- 自分の意見と根拠をクラスに紹介する。 - 自分の意見と根拠を見直す。	「自分の考えは何か」「その根拠は何か」「自分と同じ考えをもっている友達の根拠は何か」「自分と違う考えをもっている友達の根拠は何か」に注意して聞くためのワークシートを用意する。 - 友達から得た情報を基に自分の意見と根拠を見直し、伝えたい意見をはっきりもつように指示する。 - 伝えたい意見がもてなかった児童には、ワークシートをもとに友達の考えの中で「いいなあ」と思った考えを選ぶように助言する。	A 紹介活動で得た情報と自分の意見や根拠とを比較し、友達に伝える内容として適切な考えを書いている。 B 紹介活動で得た情報と自分の意見や根拠とを比較し、伝えたい考えを明らかにして書いている。 (書 ワークシート)
	3	6	自分の意見とそれを支える根拠を話し合う	- 意見と根拠を表や図に整理するように助言する。 - 根拠となる事柄や具体例が少ない児童には、1回目の交流活動のワークシートや参考図書に戻って考えるように助言する。 - たくさんある根拠の中で自分の意見を支える根拠は何かを明確にして説明できていたかを隣同士で確認する。 - 意見と根拠が明確になっていないときはアドバイスすることを伝える。 - 表や図に書けない児童には、「言葉の研究レポート」のマップ作りのときの様式で書けばよいことを助言する。 - 整合性が分からない児童には、意見と根拠がつながっていると考える理由が言えるかどうか確かめるように助言する。	A 意見を支える根拠を表や図に整理することで、多方面から根拠を補充し、根拠をより明確にしている。 B 自分の意見と根拠が合っていたかを表や図に書いて確かめている。 (書 発表用の表や図)

4 見 通 し 3	7 (本 時)	○ たくさんの事柄や具体例の中でどれが根拠として適切かを考え、取捨選択していくことで根拠を明確にする。	○ どの根拠を選ぶとよいのかを前時に使った発表用の図で考え、根拠の軽重や質を視点にすることを確認する。 ○ 友達の根拠に対して発言したり、友達からの意見を大切にしたりできるように支援していく。 ○ 友達からの意見を参考に、事柄や具体例の中でどれが根拠として適切かを考えて、取捨選択することを指示する。 ○ どの根拠を選ぶかが分からない児童には、どの根拠で説明すると相手に分かりやすいかを考えるように助言する。	A 意見と根拠を説明し、相手を説得できるかを考えて根拠の軽重や質に目を向け複数の根拠を選んでいく。 B 意見と根拠を説明し、軽重や質に目を向けて複数の根拠を選んでいく。 (書 観察 ノート)
	8	○ 読みやすく分かりやすい意見文は、どんな文なのかを構成の視点で考え、頭括の型に合った意見文を書く。	○ 頭かつ型と尾かつ型との意見文を比較し、読みやすく分かりやすい意見文の構成を考えさせる。 ○ 構成の視点が考えられない児童には、レポート文の構成を振り返るように助言する。 ○ 意見だと分かる文末、根拠だと分かる書き始めの言葉、根拠だと考える理由などに注意がいくようにする。 ○ 構成の型の説明をする。(頭かつ型の文章構成を用い、根拠を二つ以上挙げる。根拠ごとに段落を変える。また、根拠だと考える理由を書くことが自分の意見を正しく伝える上で大切なことを説明する。)	A 読みやすい意見文を書くための段落の構成や、意見と根拠の書き分け方に着目して書き方を考えている。 B 段落の構成や、意見と根拠の書き分け方に着目して意見文の書き方を考えている。 (書 意見文)
	9	○ 根拠の提示順や意味付けが分かりやすいかを班で話し合う。	○ 班のメンバーの意見文をコピーし同時に読んで話し合えるようにしておく。 ○ 根拠を配置する順序や根拠の意味付けが入っているかに視点を当てて班で話し合うように指示する。 ○ 友達の意見文の根拠の意味付けが見付けられない児童には、つなぎ言葉や文末に着目するように助言する。 ○ 根拠に飛躍がなかったかを考える視点として時間、空間、一般から特殊、原因から結果、既知から未知、重要さ、動機付け順などがあることを必要に応じ紹介する。	A 根拠の順序や根拠だと考える理由を確認することで、相手を説得する根拠になっていたか、根拠に飛躍がなかったかを考えている。 B 根拠の順序や根拠だと考える理由を確認することで、相手を説得する根拠になっていたかを考えている。 (書 観察 意見文)

本時の学習（見通し２）

- (1) ねらい 班で意見と根拠を相談することを通し、たくさんの事柄や具体例の中で伝えたい意見と合っていて読み手を説得でき、しかも分かりやすい根拠を選ぶ。
- (2) 仮説 選材の過程において、自分の意見と根拠の整合性を確認するための交流活動を通し、友達の意見を参考にしながら根拠の軽重や質について考えれば、自分の意見をしっかり支える根拠をもつことができるだろう。
- (3) 準備 意見と根拠の図の例
- (4) 展開（９時間扱いの７時間目）

学習活動	支援及び指導上の留意点	時間	評価項目と方法
1 根拠を選ぶときに注意するとよいことを考える。	- 教師の作った意見と根拠の図からどれを選ぶとよいかを考えさせる。 - 根拠を選ぶ視点について、伝えたい意見と合っているか、読み手を説得できるか、分かりやすいかなどとしてまとめていく。 - 根拠は２～３個選ぶとよいことを確認する。 - 根拠の選び方を相談する時間を一人５分と決めて、班のメンバーの全員の相談ができるように、計時係を決めておくことよいことを知らせる。	15分	
2 班で自分の意見と根拠を発表し合い、お互いにどの根拠が適切かを助言する。	- 発表者は意見と根拠を表や図に整理したものを提示し、自分の意見を説明するための根拠にはどの事実や事柄が適切かについて友達の意見を聞くように指示する。 - 意見を支えている根拠か、根拠は相手を説得できるような内容か、を考えて班のみんなで発言していくことを確認する。 - 友達の意見を支える根拠について考えが言えない児童には、発表者の伝えたい意見と合っているもので納得した根拠を見付けて表や図の中の根拠を指し示すように助言する。 - 表や図の中に友達の意見を参考に考え直し、自分の選んだ根拠に印を付ける。	20分	A 意見と根拠を説明し、読み手を説得できるかを考えて根拠の分かりやすさ・価値・重大さに目を向け選んでいる。 B 意見と根拠を説明し、読み手を説得できる複数の根拠を選んでいる。
3 自分の意見を支える根拠を選ぶ。	- 根拠を選んだ理由をノートに書く。友達の意見を聞き、どう考えたかも振り返り選んだ理由の中に書くようにする。 - どの根拠を選ぶかが分からない児童には、どの根拠で説明すると相手に分かりやすいかを考えるように助言する。 - 早く書けた児童に発表させ、書き方の分からない児童の参考にさせる。	10分	（書くこと 観察 発表用の表や図 ノート）

(5) 本時の評価

○ 具体の評価規準

- ・ 友達の意見を聞き、どの根拠が分かりやすいかや、説得できるかを考えて根拠を選んでいる。
- ・ 友達の意見に合う根拠について自分の考えを話している。

○ A の状況を実現していると判断する際のキーワードとその具体的な姿の例

- ・ 自分の意見で読み手を説得するためには、意見と合っているか、分かりやすいかだけでなく、価値や重大さについて考えて根拠を選んでいる。
- ・ 友達の伝えたい意見のために、どんな根拠があると分かりやすいかを考えながら助言している。

○ C と評価した児童に対する手立て

- ・ どの根拠が分かりやすいかや、説得できるか、についてどう考えればよいか分からず、根拠を選ぶことができない。

⇒ 自分の意見を伝えるためにはどの根拠がよいかを、多くの友達の選んだ根拠と友達からの助言の言葉を思い出して選ぶようにさせる。

- ・ 友達の意見を支える根拠について助言することができない。

⇒ 友達の意見に合っていると考えたものやなるほどと感心した根拠を表や図の中から選び、指し示すようにさせる。

[illegible]

伝えたい意見

--